

## 共同体の罪の悔い改め

ダニエル書9章

主よ、恥はわれわれのもの、われわれの王たち、君たちおよび先祖たちのものです。これはわれわれがあなたにむかつて罪を犯したからです。(8)

この章の前半には、ダニエルがイスラエルの民のために主にささげた執り成しの祈りが記されています。ダニエルは祖国の回復を心から願ひ、熱き祈りをささげました。

ここでダニエルはまず、イスラエルの民が今のような捕囚の身になっているのは自分たちの罪が原因であることを素直に認め、悔い改めの祈りをささげます。このとき、ダニエルは先祖たちが犯した罪を「あの人々は……」と他人事のようにして祈つたのではなく、「われわれは……」と述べて、自分の罪として告白しています。神の民イスラエルという同じ共同体に属する者として、先祖たちの罪は自分たちの責任でもあるということです。これが一つの共同体に属する者のあるべき姿です。わたしたちの教団においても、一九九七年の教団総会において、「日本ホーリネス教団の戦争責任に関する私たちの告白」を表明しました。これは戦時中の指導者たちの過ちを今の世代が告発するといふものではありません。教団が犯した罪を自分たちの責任として受け止め、神と人との前で悔い改めをささげたのです。共同体の祝福は、真摯な悔い改めを抜きにしてはありえないと信じたからです。

教会に連なるということは、教会の祝福も罪も、自分のこととして受け止めるということ。そのような者たちの祈りによって、教会は形成されていくのです。